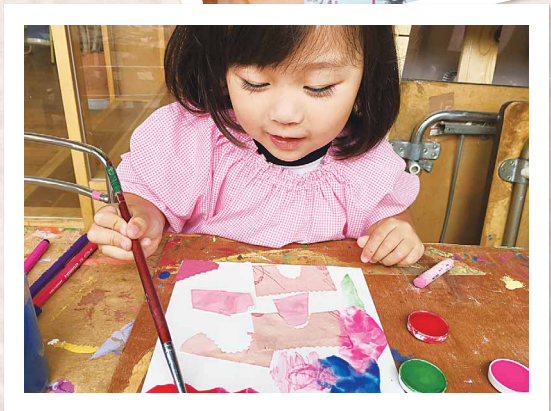
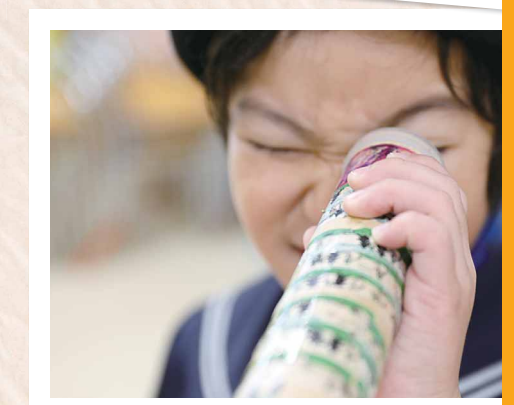


平成30年3月 要約版

これからの時代に求められる
資質・能力を育成するための
幼児教育指導

豊かな創造性を育む



公益財団法人
日本教材文化研究財団

子どもの創造性を育む保育・幼児教育のために

研究主題

なぜ創造性?: これからの社会に求められる資質

- ・ 急激に変化する社会でも、創造性は求められる資質である。遊びは創造性を培う基礎となるものであり、幼児期の創造性がその後の発達に与える影響も研究されてきている。
- ・ OECDのPISA2021でも創造性が問われる予定であり、国際的にも注目されているトピックである。
- ・ 一方で、日本では今回の改訂でも、まだ十分には検討されていない点もある。

創造性の捉え方

創造性神話を越えて

- ・ 創造性は特別な才能ある人がする芸術活動と言う誤った信念がまだある。
- ・ 本研究会は創造性を関係性の中で、ひとやもの、環境とのかかわりのなかで創発される多様な活動として捉え、遊びの中の子どもの可能性の中に創造性を考える。

研究方法

事例研究法と振り返りツール開発

- ・ 創造的な場面の事例を持ちよるところから、子どもの創造が生まれる場面。
- ・ 保育者、環境の関わりと同時に、創造性を育てる園風土・研修などを検討。
- ・ 実際に振り返りのためのツールを開発。



▶ 詳しくは本文11頁を参照

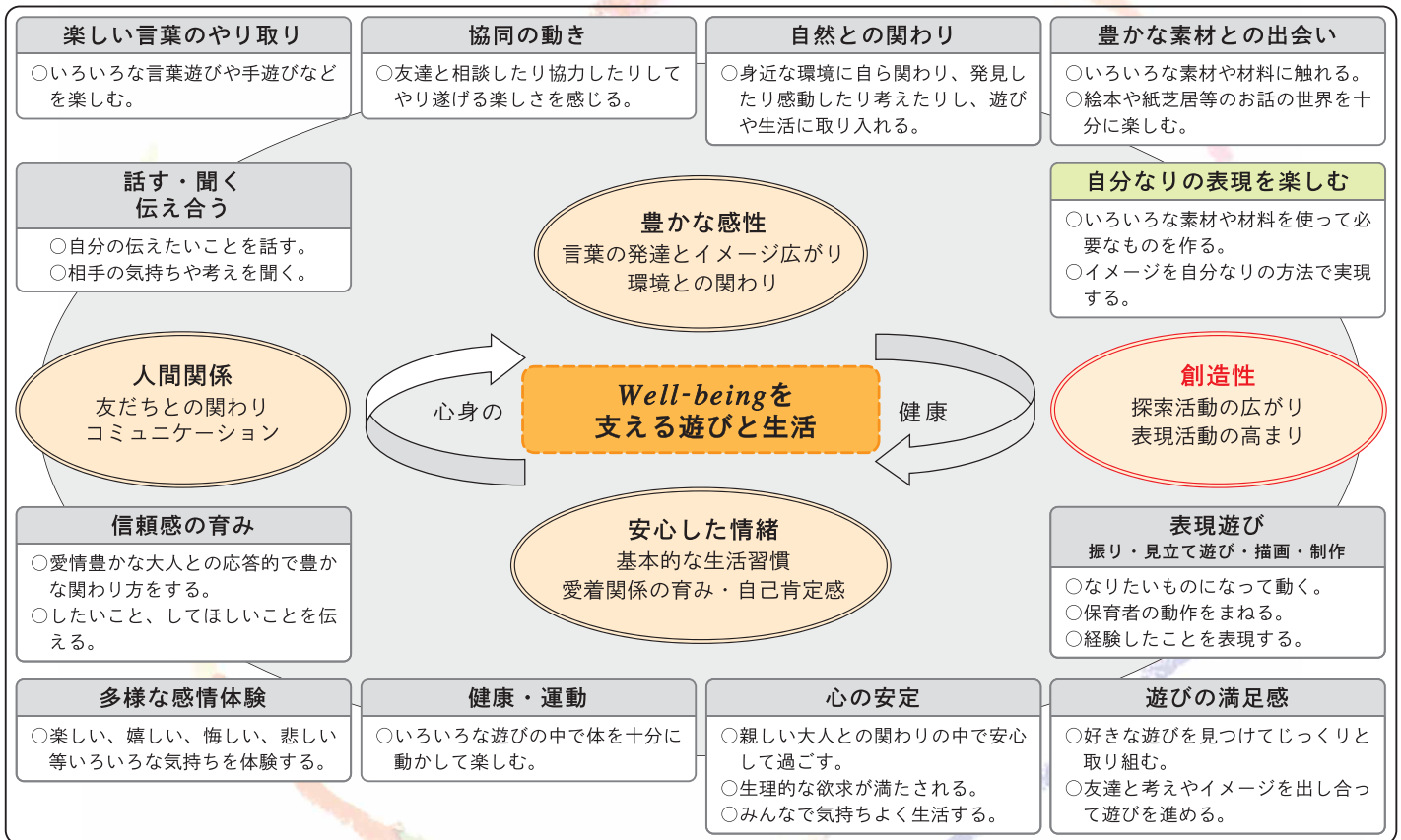
素材との対話

4月 3歳児Tさん、Rさん、Hさん、Kさん、Yさん、Tさん、Hさん 4歳児Rさんの表現とそのプロセス

▶ 詳しくは本文118頁を参照

子どもの創造性を育む保育・幼児教育のために

資質・能力の育成

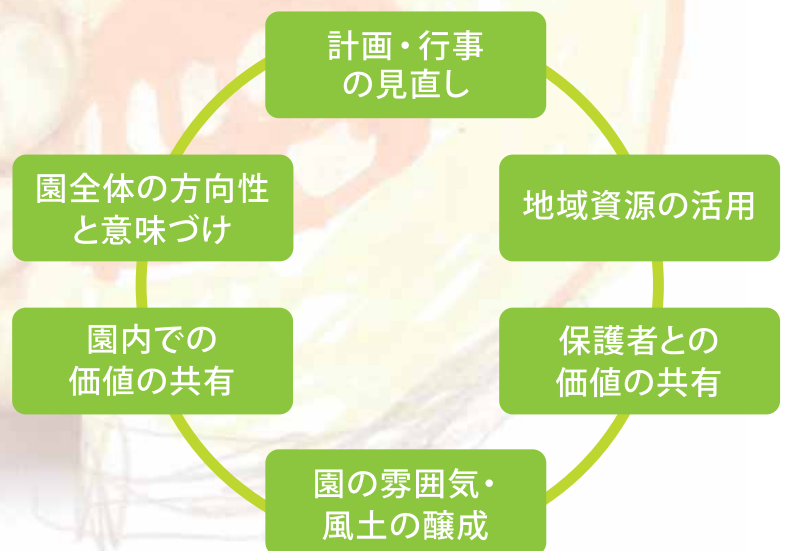


▶詳しくは本文68頁を参照

〈子どもの創造性を はぐくむ保育・幼児教育のポイント〉

- 子どものプロセスから創造性を理解する
- 遊び環境・場、素材・教材の自由さと構造化のバランスについて議論されている(自由とコントロール、大人主導と子ども主導)
- 創造性を生み出すための教育方法、文脈、保育プロセスがある
- 遊び環境について大人が十分に知り、子どもが自由にアクセスできる
- 空間は子どもの探究を生み出すようにダイナミックにデザインされている
- 子どもに応じた十分に柔軟な時間設定
- 子ども同士が互いの自由な表現を認めあい聞きあう関係を構築するために、保育者は自覚的に関わる
- 開かれた問題解決により、子ども同士の協働が刺激されるよう、保育者は子どもの思考、言葉、経験を繋ぎ関係づける
- 子どもが経験を振り返り、再確認できるようにする
- 子どもが創造的であるために、保育者・園が創造的である
- “すべての子どもに創造性を培う”園を作り出すような協働性とリーダーシップ

子どもの遊びには、大人が「いいな」「面白い」「きれい」「なんでだろう」とつい引き込まれ共感する瞬間がある。子どものあらゆる表現に応え受け止めていく保育者・園もまた創造的であることが求められる。保護者、地域社会との連携の中で、園の保育・幼児教育の方向性と意味を検討することが課題である。



▶詳しくは本文21頁を参照



【事例1】「靴」を作りながら工夫が生まれる

はじめは、保育者が牛乳パックの切るところに油性ペンで線を描いておいたが、やがて幼児同士で作り方を知らせ合い、線を描いて切って作るようになる。切る場所によって靴の形が違うことに気付いて作りたい形をイメージして切ったり、色や模様などを工夫して作ったりするようになっていった。

本物の靴のように作る



こんな靴を作ってみよう、と思った靴を作る



パックの柄を生かして作る



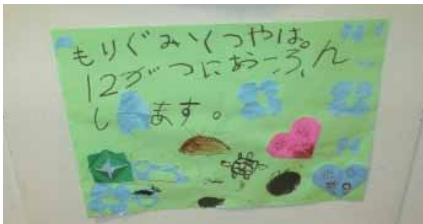
履いてみると底が固く履き心地がよくない…。底にフワフワの中敷きを貼ろう(M児)

大きすぎる…かかとに合わせて切り込みを入れて合わせ、サイズ調整(K児)

滑る…どうしよう、いや、逆に進みやすいかもしれない。そうだ、足の不自由な人の靴にしよう、でも滑り過ぎても危ないから靴底にブツブツを付けよう(S児)

【事例2】他の友達の作るポスターをまねてアピール

他の遊び(コンサート)を進めるグループがポスターを作ってお客さんに知らせるのを見て、自分たちもポスターを作ることにする。できている分の靴を廊下の一角に並べておくと、通りかかった他の学級の友達の目に留まり、よいアピールになっている。



▶詳しくは本文74頁を参照

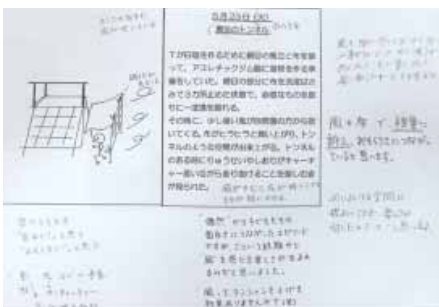
保育者の創造性



【事例】保育者が互いに創造性を発揮しあい、保育を考える仕組みとしての園内研修

- ・事例を取る際の形式(項目)をあえて細かく決めず、写真を主とした短いエピソード記録を持ち寄る
 - ・各自の「他の先生に伝えたい、話したい」と思った場面を話題にする
 - ・互いの意見を出し合い、多面的に保育を捉えながら研究の方向性を見出していくことを大切にする
- 事例の提案方法は、様々なスタイルで行われた。エピソードとイラスト、エピソードと写真、が基本でスタートし、次第に、エピソードと実物、動画を用いたプレゼン方式等、回を重ねるうち、その提案方法にバリエーションが見られた。

▶詳しくは本文82頁を参照



偶然の発見から皆でイメージを共有して



【事例】卒園に向けてお部屋を飾ろう(年長5歳児3月)

卒園が間近な幼稚園の年長組の保育室。みんなできれいにお部屋を飾ろうと、素材となる花紙でお花を作っていたら、色とりどりの花紙の切れ端がいっぱいでて床一面に広がっていた。



「桜の花びらみたいだね」という友達の声から「貼り絵みたいにできるかな」というアイデアが出て、この切れ端はこれからも集めて「いっぱいためておこう」ということになった。

花作りが一段落して、切れ端も集まりそれを使って、画像のような作品を作りはじめた。偶然生まれた素材を見て、こんな風に出るかなと想像して、そのイメージを皆で形にしていく姿が印象的であった。そのプロセス、作品が創造的だと思った。

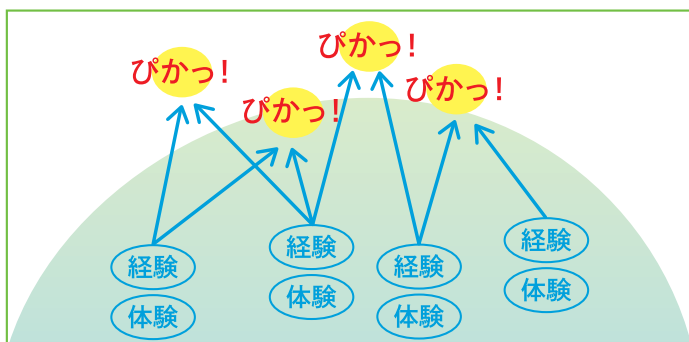
▶詳しくは本文93頁を参照

創造性を育成できる園のイメージ図

創造性「つながる楽しさ」

- 「もの」から「こと」(物語等)へ
- 自分の中のひらめきから、友達とのひらめきへ

偶然の発見や気づきが蓄積され
繋がったときのひらめきの楽しさを味わう



創造性を発揮する原動力

- 1) 感性 面白そう・きれい・かっこいい等
- 2) 主体性や意欲
やってみたい・どうなるんだろう等

- 自己発揮する楽しさ
- 安心して過ごせる園生活

▶詳しくは本文85頁を参照

創造性を育む幼稚園

幼児と保育者は同型構造

「なりたい保育者・幼稚園になる」

創造性を育む同僚性

- クラス間比較ではない保育
- 園内研修とカリキュラムマネジメント

保護者との共通理解と協働

創造性を育む教育環境

創造性を育む保育環境の構成
「ひと」「もの」「こと」

創造性を育む保育者

- 創造性を見出す視点
- 保護者自身が楽しむ気持ち
- 具体的な援助や支援

創造性を育む「時間」の保障

「その子らしさ」「個々の違い」「やる気」
それぞれの尊重

園文化…「必要なものは自分で作る」

子ども同士の即興的な対話がうみだす創造性

創造性の源泉となる 即興的なコラボレーション

事例では、はじめ、男児が怖い地図を一人で黙々と描いていた。そこへ、冒険家になりきった仲間が加わり、二人で「お宝探しの冒険ごっこ」を絵を描く活動の中で展開させていった。お互いの声を聴き合い、即興的に思いつくアイデアと絵、文字を交換し合いながら、紙の上に豊かな世界を表していた。

- ・子ども同士での即興的な応答の連鎖が、一人で取り組んでいた時の表現に広がりや深まりをもたらす。
- ・即興的な活動に取り組む子どもは、次に何が起こるのか予測できないので、互いの話をよく聴き、相手の表現に応えようとする。
- ・子ども同士の聴き合う関係性に支えられ、「新しく、質が高く、さらに文脈に適合したアイデア」が生まれ、創造性が高められていく。
- ・子どもが他者と関わり合いながら、さまざまな可能性を探求していく「創造的プロセス」を保障していくことが大切であろう。

▶詳しくは本文41頁を参照



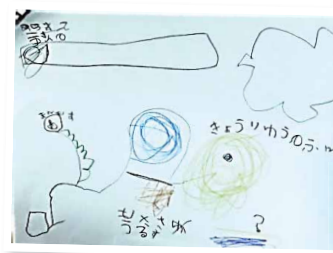
【事例】地図を持って 冒険にいこう(年長5歳児9月)



- 1 5歳の男児が「怖い地図」を描いていた。



- 2 仲間が加わり、つぶやき合いながら冒険地図を描いていく。



- 3 発見した場所とモノが次々に描き込まれていく。



- 4 二人で描いた地図を確認しながら冒険に繰り出す。



保護者・地域社会との連携が生む創造性

保護者と一緒に

「保護者と一緒に子育てを」という意識を強く持ち取り組んでいる。保護者に「どんな子どもに育てたいか」を語って頂き、園とご家庭とで「子どもの良い所」を共に喜び、関わり方を共有している。最近では、保護者の方々が、子ども達や園の活動に理解を示し「いっしょにいっぽ」の心で支えてくださっている。子ども達の挑戦的意欲や表現活動を応援し、支えていただく環境として、保護者との連携を大切にしていきたい。



保護者の方々が作成した掲示物

(園から持ち帰った野菜類のレシピや子どもの様子を写真を使って提示)



地域の特性を活かして



いったい誰が食べたんだろう？

これはカラスだね…
(農家の方)



試行錯誤を繰り返して「カラス避け」を創る

近隣の農家、JA直売所、ボランティアの方々が、園に対して好意的にお力を貸してください。事例の中で、子ども達が自分達だけでは解決できないこと、保育士の力だけでは発展しえなかったことが、地域の様々な恩恵を受けながら、子ども達は自分達の想いを形にできた。地域とのつながりを大切にし、関係性を築いていく中でそれを活かした体験へと発展していくように思う。

▶詳しくは本文153、165頁を参照



園の前で行われている工事。マンホールの中ってどうなっているんだろう。ちゃんと覗けないからこそ想像が膨らむ。



地面の下を想像し、自分の地下空間を創造する。



子どもは恐竜の化石探しが大好き。

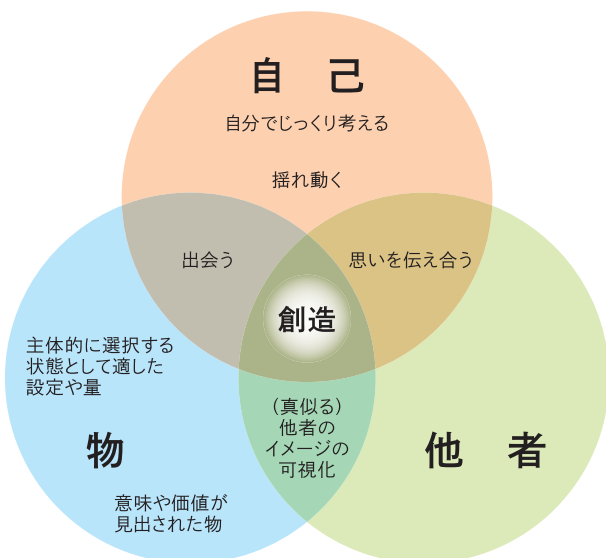


集めた骨(石)で自分の思い描く恐竜を創造する。

▶詳しくは本文100頁を参照



創造性を育む素材・環境・活動



- ・ 保育実践では、創造性は、それを育む特別な物や特定の物が存在するというのではなく、また一人の行為者(子どもも保育者も)の能力などに依存するとも限らない。
- ・ 物と行為者との適当な関係とそれを支える空間や雰囲気といった無形的环境が育てている。

▶詳しくは本文31頁を参照



創造性を育むための保育環境チェックシート

このチェックシートは、どの程度創造性を育む保育環境が整っているかなどを園内で検討するときに各保育者が確認し、ディスカッションの話題提供などに使用してください。

チェック項目	✓ 欄	具体的にどんな場面かを書きましょう。
保育者が用意したもので遊ぶのではなく、子どもが自ら遊びたいと考えた玩具を選ぶことができる環境になっているか		
何かを作りたいと思ったときに、すぐに使える素材が手に届くところに用意されているか		
求められたときに、材料を提供するためのストックがあるか		
目的に応じて自由に使用できる、道具があるか		
じっくり取り組める時間と場所があるか		
子どもの創造性を刺激するために、定期的に保育環境を変化させているか		
子どもの興味や関心に応じて、必要な玩具や道具、材料が用意されているか		
子どもの創造的な遊びを認め、周囲の子どもたちに知らせる機会があるか		
子どもの発想を実現できるように相談にのり、一緒に考えながら場所や材料、道具を用意することができるか		
繰り返し遊ぶことができる玩具があるか		
調べたいことがあるときに、調べる手立てが用意されているか		
遊びに集中できる場所や環境があるか		



あき箱は多様なサイズを豊富に用意



子どもの求めに応えられるような素材を準備



作っている途中のものは、そのままっておける工夫を



子どもの願いに応じて場や時間を構成

▶チェックシート・ワークシートは冊子172頁～181頁を参照



研究会メンバー

秋田喜代美(東京大学大学院教授)、野口隆子(東京家政大学准教授)
 宮田まり子(白梅学園大学講師)、伊藤史子(東京藝術大学非常勤講師)、亀ヶ谷忠宏(学亀ヶ谷学園宮前幼稚園園長)
 大竹節子(元東京都教職員研修センター研修研究支援専門員)、石井雅(品川区立大井保育園園長)
 福田奈美恵(福)湘北福祉あゆのこ保育園副園長)、和島千佳子(文京区立本駒込幼稚園副園長)
 加藤篤彦(学武蔵野東学園武蔵野東第一・第二幼稚園園長)、堀田由加里(東京大学大学院院生)

公益財団法人 日本教材文化研究財団

〒162-0841 東京都新宿区払方町14-1 電話:03-5225-0255 FAX03-5225-0256 <http://www.jfecr.or.jp>

